これひとつ、いくらですか？

聴いて、すぐに後悔した。なにも八百屋で野菜を物色してるわけでもないのだ。ここは武雄市図書館・歴史資料館。物音ひとつしない関係者通路の先、普段は誰も入ることが出来ない重厚な扉を開くと、そこに、その資料たちはあった。幕末の武雄鍋島家、あの司馬遼太郎に、『幕末の佐賀藩は奇跡というほかなく、スエズ以東で最も先進的な地域であった』(文芸春秋刊「歴史を紀行する」より)と称されたその時代に、武雄の領主「鍋島茂義(なべしましげよし)」が中心となり収集した、武雄鍋島家の洋学関係資料。国の重要文化財に指定されることになったそれらの資料を、川副義敦参事(歴史資料館担当)に案内されて、思わず出たのが、冒頭の私の言葉だ。言い訳をさせてもらうと、そう問わずにはいられないだけの圧倒的な「知」の集積がそこにあったのだ。川副さん、冒頭の問いかけにはさらっと「三百両を超えるものもある」。当時の一両は現在の価値で約10万円…佐賀藩がそんなに裕福だったという記憶は私には無い。

モルチール砲
天保6年(1835)に造られた洋式大砲。上面に武雄鍋島家の紋と、オランダ語の銘(1835年 日本で初めて鋳造)があり、裏面には漢文で制作に携わった高島家の名前などが刻まれている。